

映画解説ノート / 映像表現を学ぶ

『ジョーズ』授業ガイド

「見せない怖さ」と映画の工夫——「見えないから、怖い。」

教員用・指導資料（対象：小学校高学年以上）

本資料はAI（Claude / Anthropic）で作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家の監修ではありません。授業での使用可否・場面の選択・学年の適否は、担当の先生が最終判断してください。

1 授業の概要

テーマ	「見せない怖さ」と映画の工夫（映像・音楽・編集で感情が生まれるしくみを知る）
教材映画	『ジョーズ』（原題 Jaws／1975年・アメリカ／監督：スティーヴン・スピルバーグ／音楽：ジョン・ウィリアムズ）
対象	小学校高学年以上。サメにおそわれる場面や流血の描写があり、怖がちな児童への配慮が必要（下記参照）
時間	標準90分（45分×2）。上映124分。厳選クリップ（とくに音楽と「見せない」演出の場面）を中心に
中心概念	「見せない」演出／映画音楽の力／カメラ・編集・俳優の表情の工夫／夏の大作映画という公開方法
ねらい	映画の「怖さ」がサメそのものではなく、音楽や演出の工夫から生まれることに気づき、表現する側の視点で映像を見る力を育てる
準備物	児童用ワークシート（別PDF）／音を消して見せる場面と音ありの場面（同じクリップ）／筆記用具

2 内容への配慮（必ずお読みください）

⚠️ 怖い場面の扱い（重要）

本作は、**人がサメにおそわれる場面**や**流血の描写**を含みます。子どもがおそわれる場面もあるため、**全編上映は避け**、学級の実態に応じて場面を選んでください。

- 怖い映像が苦手な児童のために、**見ない選択肢**や、事前に「どんな場面か」を予告する配慮をする。
- 上映は**音楽と「見せない」演出がわかる場面**を中心にし、おそわれる瞬間の映像は避ける。
- 海やサメへの過度な恐怖が残らないよう、**実際のサメの生態**（人をおそうことはまれ）を補足する。
- 年齢区分はソフト・配信により表示が異なる場合があるため、**上映前に確認**する。

📄 レイティング・著作権について

- 年齢区分は配信版・ソフトにより表示が異なる場合があります。使用予定の版をご確認ください（米国ではPG）。
- 授業での上映には教育機関向けの権利処理が必要になる場合があります。本教材の文章はすべてオリジナルで、ポスター・場面写真は使用していません。

3 「見せない怖さ」が生まれたわけ（予備知識）

サメロボットの故障

撮影では本物ではなく、巨大なロボットのサメを使いました（スタッフは「ブルース」と呼んでいました）。ところが**海水で故障ばかり**。そこで監督は、サメを見せない演出に切りかえました。すると、これが逆に「**見えないから怖い**」という大成功につながりました。

音楽の力

作曲はジョン・ウィリアムズ。**低い音がくり返される有名なメロディ**で、サメが近づいていることを音楽だけで表現しました。同じ映像でも、音楽があるかないかで怖さが大きく変わります。

💡 「夏の大作映画」の始まり

それまで映画は少しずつ公開されることが多かったのですが、『ジョーズ』は全米で一気にたくさんの映画館で公開され、テレビCMも大量に流しました。これが今の「夏休み映画」「大作映画」という売り方の始まりになったと言われます。高学年以上なら、映画の「売り方」の話にも広がられます。

「怖さ」をつくる4つの工夫（板書用）（板書用）

① 見せない

サメの姿をあまり映さず、想像させる。

② 音楽

くり返される低い音で「近づいてくる」を伝える。

③ カメラ

水の中からの目線で、見ている人をドキドキさせる。

④ 表情と編集

人の驚く顔や、場面の切りかえで緊張を高める。

🎯 この授業の到達目標

映画の「怖さ」を生み出す工夫を2つ以上挙げて説明でき、自分が監督ならどう表現するかを考えて書ける。

4 90分授業の流れ（45分×2）

時間	ながれ	先生の動き・発問
0-8分	導入	「映画を見て『怖い』と感じるのは、なぜ？」と問い、予想を出し合う。
8-18分	予備知識	サメロボットの故障と、「見せない」演出が生まれたわけを紹介。
18-40分	音の実験	同じ場面を 音なし→音あり で見せ、怖さの違いを比べる（クリップ）。
40-45分	1時間目のまとめ	気づいたことを一言メモ。
45-65分	映画を観る	「見せない」演出がわかる場面（クリップ）。4つの工夫を探しながら見る。
65-82分	ワーク記入	「自分が監督なら、どう怖さを表現する？」を考えて書く。
82-90分	共有・まとめ	板書「見えないから、怖い。」で締める。

🌱 まとめ

映画を見て「怖い！」と感じるのは、サメだけが理由ではありません。カメラの動き、音楽、俳優の表情、編集など、たくさんの工夫が組み合わさっているからです。「作る側」の視点を持つと、映画の見え方が大きく変わります。

5 映画の背景知識

原題／邦題	Jaws / ジョーズ
製作年・国	1975年・アメリカ。上映124分
監督	スティーヴン・スピルバーグ（撮影時27歳、公開時28歳）
音楽	ジョン・ウィリアムズ
受賞	アカデミー賞 編集賞・作曲賞・音響賞の3部門

主なキャストと役柄

- ・ **ロイ・シャイダー**（プロディ署長役）：「水がこわい」という設定の、島の生活になじめない“ふつうの人”。
- ・ **リチャード・ドレイファス**（フーパー役）：若い海洋学者。この役で一気に有名になった。
- ・ **ロバート・ショウ**（クイント役）：ベテラン漁師。俳優だけでなく小説家でもあった。

🎬 本物の海で撮影

当時はほとんどの映画がスタジオで撮影されていましたが、『ジョーズ』は本物の海で撮影しました。そのため撮影は予定より何か月も長くなりました。有名なセリフ "You're gonna need a bigger boat."（もっと大きな船が必要だ）は、シャイダーのアドリブだったといわれます。

※上記の事実は公開情報（Encyclopædia Britannica、映画.com等）をもとにしています。細部・脚色には諸説あるため、授業前に必要に応じてご確認ください。

6 発問例・見取りのポイント

Q. なぜ、サメをあまり見せないほうが怖かったのだろう？

→ 見えないと想像がふくらむこと。音楽やカメラが「いる」ことを伝えている点に気づかせる。

Q. 音楽がなかったら、この場面はどう感じる？

→ 音なし・音ありを比べた体験をもとに、音楽の力を言葉にさせる。

Q. 自分が監督だったら、どんな工夫で怖さ（または楽しさ）を表現する？

→ 身近なもの（学校の廊下、夜の公園など）を題材に、4つの工夫を使って考えさせる。

ワークシートの見取り（評価の観点）

- ・ 「怖さ」を生む工夫を、映画の場面を根拠に2つ以上挙げられているか。
- ・ 音楽や演出の効果を、自分の感じ方と結びつけて説明できているか。
- ・ 作る側の視点で、自分なりの表現の工夫を考えられているか。
- ・ 怖い場面が苦手な児童には無理をさせず、書いた内容を尊重する。

7 参考資料（主な出典）

Encyclopædia Britannica「Jaws」 <https://www.britannica.com/topic/Jaws-film-by-Spielberg>

Woods Hole Oceanographic Institution 公式サイト <https://www.whoi.edu/>

引用：映画『ジョーズ』（1975年、監督スティーヴン・スピルバーグ）